

# わかやま

No.17

和歌山県精神保健福祉センターだより 2003年10月

## 「最近の子どもの問題について」

和歌山県臨床心理士会 会長 桑原 義登

近年、科学の進歩とともに大変便利な世の中になってきている反面、文化や社会情勢の変化に戸惑い、対人関係や社会適応に困難をきたしている事象を多く見かけます。子どもの不登校やいじめ、子育て不安、中高年のこころの危機等いろいろな分野でこころの問題が増加し、その解決を図るために何らかの援助を必要とすることが多くなってきています。特に長崎で起きた中学生による幼児殺害事件は記憶に新しいが、前述の不登校やいじめだけでなく非行・虐待・きれる子・閉じこもり・家庭内暴力等々の子どもに関する問題が後を絶たず、だれにでもどこにでも起こりうる社会的な課題となってきていると考えます。

背景として日本社会の急激な変化があげられます。都市化になるにつれて価値観が多様化してきたために子育ての考え方に混乱が生じていることや、母親の就労機会の増加や核家族化の進展により子育ての仕方が変化したことなどが考えられます。

また、地域社会としてのつながりが希薄になり、地域社会全体で子育てに関わることが少なくなるなど、子育てを巡る環境は厳しさを増しています。全体的に家庭や地域社会の養育機能が低下しており、家庭の中だけでまた、学校の中だけで子どもを育てることが困難となり、みんなで子育てのあり方を考えていかねばならない時代になっていると考えます。障害者や高齢者の介護についても同じことが起こってきていると思います。

また、子ども自身も少子化傾向の中で、自由に子ども同士で遊びまわる機会や、対人関係でもまれる機会が少ないため、相手の痛みを共感したり、葛藤して困難を乗り越えていくという人格成長につながる体験に乏しいことも気になります。長崎の中学生も幼児期にこのような体験をせずに過ごしてきたことが、大きな問題行動を起こす一因であったと考えます。

問題行動を示す子ども達は、私たち大人に対して「生き方」を求めている姿のようにも見えます。現象として外から見える行動だけでなく、混乱している子どものこころに沿うことも重要だと考えます。このような問題の事象に直面して、かなりの覚悟をもって家庭及び地域の関係機関が協力し合って行かねばなりません。この課題を乗り越えていく作業そのものが子どもの成長、親の成長、そして社会の成長につながっていくものと考えます。和歌山県臨床心理士会ではスクールカウンセラー、子育て支援、被害者支援、高齢者支援及びH I V感染者支援の分野に担当理事を置き、研修・研究・啓発活動を行っています。今後とも和歌山県民の心の健康の向上に貢献することを目的とした活動を行ってまいりたいと考えていますので、ご支援とご協力をお願いします。

## もくじ

- P 1 最近の子どもの問題について
- P 2 精神障害者居宅生活支援事業アンケート調査について
- P 3 ～ 地域の支援 ～ 和歌山生活支援センター
- P 4 下津町精神障害者家族会「虹の会」
- P 5 メンタルヘルスニュース／お知らせ
- P 6 は一とふるネットワーク「和歌山市保健所 松岡信一郎さん」  
研修のお知らせ／所長のひとり言／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

## 精神障害者居宅生活支援事業アンケート調査について

### (1) 対象と方法

対 象：和歌山県下50市町村

実施時期：平成15年3月末に市町村担当課に調査を依頼した。調査は郵送にて行い、回収時期は、平成15年4月～5月である。

調査内容：平成14年度の精神障害者居宅生活支援事業実施状況

### (2) 結果と考察

#### 1 精神保健福祉業務の窓口について

精神障害者保健福祉手帳・通院医療費公費負担申請の窓口、精神障害者居宅生活支援事業の窓口、社会復帰施設や社会適応訓練事業の利用に関する相談や斡旋・調整の実施窓口については、調査対象の50市町村のうち、それぞれ約半数近くの市町村が保健・福祉合同の窓口で対応している。

次に福祉サイドの対応と続いている。全体の約4分の3以上がなんらかの形で、福祉サイドの窓口での対応となっていることが特徴である。

なお、50市町村中41市町村については、上記3つの事業窓口が個々別々ではなく、同一の窓口(課)での対応となっている。

#### 2 精神保健福祉業務の担当者について

社会復帰施設や社会適応訓練事業の利用に関する相談や斡旋・調整については、約6割の保健師が担当しており、ケースのマネジメントを行う事の中心的業務を保健師が担っているのが特徴である。精神障害者保健福祉手帳・通院医療費公費負担申請の受付窓口や精神障害者居宅生活支援事業については、それぞれ約5割の事務職が担当している。精神保健福祉士を配置している市町村は2市町村にとどまり、まだまだ少ない現状にある。

#### 3 精神障害者居宅生活支援事業の進捗状況について

精神障害者居宅介護等事業(ホームヘルプサービス)は、6割の市町村が実施している。精神障害者地域生活援助事業(グループホーム)と精神障害者短期入所事業(ショートステイ)は、それぞれ3割の市町村が実施している。ただ、精神障害者地域生活援助事業と精神障害者短期入所事業については、約4割が要綱を整備せず未実施であることは今後の検討すべき課題である。

上記三つの事業の対象疾患としては、統合失調症が7～8割を占める。また、精神障害者保健福祉手帳所持者も、ホームヘルプの利用要件とはされているものの、非常に高い割合を示している。手帳を所持することが、これらの制度を利用できる体制強化につながっていくように思える。

なお、平成14年度の障害者ケアマネジメント体制整備が終了し、平成15年度からケアマネジメントの本格実施がはじまった。ケアマネジメントそのものは、地域で精神障害者を支えるために有効な方法であるが、今回の調査では、サービス導入時のアセスメントとしては活用されていないという結果がでてきた。ホームヘルプサービスの導入時のアセスメントについても現場サイドから、とまどいの声が上がっており、ケアマネジメントについて更なる議論をしていく必要があると考える。

(文責 長島)

このコーナーでは県下の社会復帰施設を紹介します。  
第6回は、和歌山市にある「和歌山生活支援センター」です。  
「和歌山生活支援センター」の江上さんにお話を伺いました。

## ～ 地域生活の支援 ～

# 和歌山生活支援センター

麦の郷での生活支援は、障害者の地域生活を可能にするために、仲間のニーズから生まれてきました。そして、様々な段階に応じた支援を、自分で選択していく事で、当たり前で地域で生活する事を目指しています。また、たくさんの人と手をつないで「支援ネットワーク」をすすめています。

地域で生活する障害者・家族への相談や支援活動を行ったり、精神保健・福祉についてのネットワークづくりをすすめています。

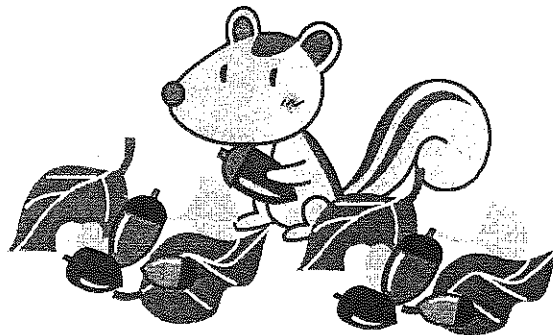
麦の郷「和歌山生活支援センター」は、1997年より和歌山市地域を中心として、障害を持つ方たちが地域で生活をしていくために必要な支援を行っています。一言に必要な支援といっても、生活をしている中で求められる支援内容は当然のことながら個々それぞれに違っているので、その中の一部を行っているということになります。活動の多くは、センターをすでに利用している人たちの実生活に基づいた要求やセンターに持ちかけられてくる相談などから「どのような支援が求められているのか」「その中で支援センターにできることは何なのだろうか」ということを常に試行錯誤しながらつくり続けています。

和歌山生活支援センターの開所時間は平日の9時から20時と土曜日の13時から20時で、その間に様々な活動を行っています。

支援センターの利用は登録制をとっており、どのような内容で利用するかは人によってかなり違いがあります。毎日のようにセンターを訪れる方もいれば、たまにふらっと立ち寄り、電話をかけてくるだけの方もいて、個々の生活スタイルにあわせて使いやすいものを選んでいくようです。日常生活の中で生じる様々な悩みを相談したり、ちょっと誰かに聞いてもらいたい事を話してみるといったところから、自分にあった制度やサービスの活用につながっていきます。平日の16時から20時と土曜日はイブニングサービスを中心に気軽に立ち寄りおしゃべりをしたりくつろいだりできる時間となっており、夕食サービスも行っているのを併せて利用される方もいます。

年に数回ですが簡単なレクリエーション活動も行っています。センターを利用していく中で交友関係も広がり、仲間同士の情報交換や悩みの相談も気軽にできるようになっていくようです。そうした仲間同士の取り組みを組織化したかたちの当事者活動もセンターを拠点に行われており、組織の運営や活動を部分的にサポートしています。

そしてセンターの活動として欠かせない生活支援についてですが、日常的な相談はもちろんの事です、具体



的な支援としてホームヘルパーやボランティアの派遣・グループホームを利用している生活支援等を行っています。

また、生活の場と併せて重要となってくる日中の活動の場としての機能は備えていませんが、より多くの方の日中活動の場が保障されるように就労支援や作業所支援は重要だと考えています。

実際の活動は、内容を切り離して考えられない部分が多々あるのでなかなかうまくまとまりが付きませんが、現在の活動内容を大まかに挙げてみました。どの活動を行うにあたって、個人・機関を問わず連絡や調整の必要が生じてくるのですが、実は最も時間を費やして行っているのがこの連絡・調整ではないかと思われま。普段から関係する所とこまめに連絡を取り合い情報の共有をしていくことにも心がけています。

まだまだ課題たっぷりで、なんとかしたいけれどもできていない事がたくさんあるのですが、やはり一つの施設でできる活動には限界があります。少しでも生活しやすい地域にしていくためには、より多くの人や機関が連携していく必要を強く感じ、そのための重要な活動として地域でのネットワークづくりをすすめ、地域の多くの方々を支えあい高めあいながらより充実した活動が展開できるようにしていきたいと考えています。

連絡先 〒 640-8325 和歌山市新生町 3-1

和歌山生活支援センター

TEL 073 (427) 8149



このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

「虹の会」会長の中野さんにお話を伺いました。

## 下津町精神障害者家族会 「虹の会」

身体と同じようにこころも疲れたり、休養が必要となる場合があります。ひとりひとりが抱えるこころの問題・悩みは様々です。

家族会では、毎月例会をもち、家族同士が気兼ねなく話すこと  
によって、お互いに助け合う機会を作ろうとしています。

家族会とは、「自分だけが苦しんでいるのではない」と、分かり  
合える場です。

### 【「虹の会」開所まで】

平成6年より海草・海南地区家族「紙ふうせん」の中で、  
海南保健所で活動してきました。けれども、平成14年から  
精神保健福祉の業務が市町村に移行されることにともない、  
下津町在住の家族が下津保健福祉センターで勉強会を始め、  
それが保健師さんを交えて家族相互の交流会へ発展して参り  
ました。そして、地域に密着した活動へ発展することを願っ  
て、平成15年5月14日、念願であった下津町精神障害者  
家族会「虹の会」が発足することになりました。

### 【「虹の会」の活動状況】

こころの健康をテーマに、①支え合い（家族同士で悩み  
を相談しよう）②学び合い（病気のことや情報サービスの  
ことを勉強しよう）③働きかけ（病気のことを地域の  
人達に知ってもらう・わかってもらう）を家族会活動の  
三本柱として、例会を昼と夜の月2回、実施しています。  
夜は土曜日・日曜日のいずれかに行き、多くの人に出て来て  
もらいやすい様になっています。9月5日には、県の普及員さん  
に来て頂いて、みかん汁を利用した廃油石けん作りを体験  
しました。また、新宮市の社会福祉法人「なごの木園作業所」  
へ、固形・粉石けん作りを見学に行きました。（9月11日）

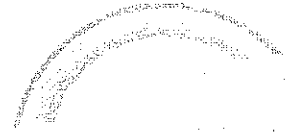
社協さんからのお話で、地元の企業さんの展示会イベント  
の中で福祉バザーをしたりしました。（9月13日・14日）。

2週間の準備期間であったため、どうしようかと迷いまし  
たが、「虹の会」を知ってもらえる良いチャンスだと思い、  
不安の中でしたが、出店させてもらうことに決めました。

病気のことを思い切って友人に話をし、協力を依頼しまし  
た。地域各種団体の方々・家族の方々の手作り作品、野菜等  
多くの商品が集まり、無事2日間終わることが出来ました。

暖かく見守って協力して下さる方々に恵まれて、心なごむ  
思いがしました。初めてのバザーでしたので、戸惑うことも  
ありましたが、良い経験をさせて頂きました。

現在は、11月の健康祭りに向けて、作品作り・観葉植物  
の鉢植えの栽培などを行っています。みんなで力を合わせてこ  
れからも出来る限り無理をせず、一步一步前向きに考えて、  
いろんなことに取り組んでいこうと思っています。



### 【今後の抱負】

家族会活動への理解のため、普及活動に力を入れたい  
です。ゆっくりと焦らずに、家族会も家族相互関係・行  
政の方々の協力を得て、頑張っていきたいと思っています。

家族会が中心となって、10月1日、下津町精神障害者  
小規模共同作業所「ピア下津」が開所しました。「ピア」と  
いう名前は、通所者が生活習慣を養い社会復帰できるように、  
又、安らぎを感じてもらえるように、ピア＝仲間という意味  
で名付けました。



〒649-0164 海草郡下津町上14-6 下津町保健福祉センター

下津町精神障害者家族会「虹の会」事務局

TEL 073-493-2722

## 和歌山メンタルヘルスニュース

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

(1) NPO法人レインボーハウスが「NPOからのふるさとづくり企画提案事業」で不登校・ひきこもりサポーター養成講座を開催し、家庭への出前支援事業を始めました。

問い合わせ：TEL&FAX 073-476-5677 大西

(2) 8月6日から10月8日の施設研修まで精神障害者訪問介護員養成講習会が開催され193人の方が修了されました。この講習会への関心は高く、申し込みが殺到しました。今後、事業の推進に併せ受講の機会を増やしていくことも課題です。また、10月8日には精神障害者訪問介護員フォローアップ研修が開催されました。講義の中で「自立のための支援」が話題になりました。「ヘルパーさんのしていることを観ていることやヘルパーさんを通して社会との接点を持つことが自立につながっている、自立させようと思うのではなくその人の自立を待ってほしい。ヘルパーさんが訪問することで再入院しないですむ人が増えました。そのことが十分に自立への支援です」と締めくくられました。

(3) 10月6日に設立後初めての当センターの運営協議会がありました。和歌山精神障害者連合会会長をはじめ、各関係機関から委員の参加があり、センター業務へのご意見を頂くと共に専門職の増員について指摘がありました。

(4) 9月17日、市町村等精神保健福祉担当職員研修会が開催されました。先進地の活動として新潟県の取り組みの紹介や、国の動向から見た市町村の役割について講義がありました。地域生活支援が効果的に進むためには作業所の適正な運営支援やヘルプサービスへの支援など市町村の果たす役割が大きいことがわかりました。

(5) 9月27日、こころのセルフケアをテーマにこころの健康講座が奈良県にある(社)たんぼの家理事長 播磨靖夫先生をお招きして県民向けに開催されました。先生のお話からケアの達人7箇条をご紹介します。①仕事と私生活の区切りをつける。②物事の優先順員をつけられる③自分の境界を設定し、過剰な責任を負わない。④自分の力で変えられるものと変えられないものを知る。⑤自分の価値は周りの賞賛や仕事の出来でなくありのままの自分にある。⑥自分の幸福に責任を持つ。⑦十分な休養やリラックスをする。でした。こころのセルフケアには、精神的な活動に価値を与え、自分の居場所を見つけることや日頃から趣味のサークルやコミュニティの中に手助けしてもらえ人間関係を築くことだそうです。

(6) 10月2日から、看護職員等人権セミナーが開催され13精神科病院から40名の参加がありました。今年度は、精神医療審査会の弁護士から講義があり、より人権について深めることができました。なお、来年度も引き続き開催する予定です。

### わかやまこころのフェスティバル

平成15年11月16日(日) 13:30~15:30

和歌山ビッグホエール(定員/240名・先着順・入場無料)

♪コンサート 「精神障害者 当事者の主張」  
13:30~ 精神障害者バンド「ハルシオン」

⇒ 自らの精神病の体験をもとに歌を作り、二人組で大阪を拠点にライブ活動を行っている。現在は大阪精神障害者連絡会(ぼちぼちクラブ)代表及び事務局次長として活躍中。

📖朗読と講演 「100人村」から見えてくること  
14:00~ 講師：池田香代子さん(作家・翻訳家)

⇒ ベストセラーとなった「世界がもし100人の村だったら」の再話を手がけた作家。その印税で「100人村基金」を設立し、世界の様々な人たちを支援している。また、アフガン難民キャンプ内の女子校、「アルイルム女学院」支援にもかかわる。

♥ 関係団体の展示・体験・喫茶等のコーナー

11月15日10:00~17:00/11月16日10:00~16:00  
(和歌山ビッグホエール)

♥ 今回は、「ふれあい人権フェスタ2003」と共同開催します。

### 第二回精神障害者ソフトバレーボール 近畿ブロック大会

~つなげひろがれ ボールとともに!~

平成15年11月28日(金) 12:30~

和歌山ビッグホエール

### ボランティア募集のお知らせ

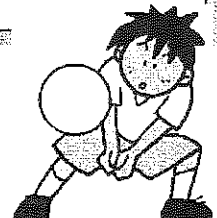
お手伝いしていただける方を募集しています。  
下記の住所まで、お問い合わせ下さい。

ビッグ愛2階 和歌山県精神保健福祉センター内  
和歌山県精神保健福祉協会

TEL 073-435-5194

受付時間：月曜日~金曜日

9:00~17:00まで



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。  
第一弾は、保健所の相談員さんシリーズです。

# はーとふるネットワーク



今回は、和歌山市保健所の松岡信一郎さんです。



一 市の保健所に就職して何年になりますか？  
平成6年8月に和歌山市保健所に就職してから異動もなく9年も過ぎてしまいました。あつという間ですね。

一 それまではどんなお仕事をされておりましたか？  
それまでは大阪府南部の精神科病院でソーシャルワーカーとして勤務しておりました。和歌山から車で雄ノ山峠を越えて通っていたんです。病院の中で働いた経験は今の業務に非常に役立っています。

一 この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？  
今までに出会ったたくさんの方々が、地域で支えられながら安定した生活を送っていく。その生活を一緒に考え、その経過にじっくりと関わることができた時です。その中で自分自身も成長していく気がします。本当に成長しているのかどうかは微妙な感じですけど・・・。

一 仕事で苦労する点はどのようなことですか？  
毎日が慌ただしく過ぎていきますが、「なんとなく」一日が終わらないように心がけています。それと和歌山市は危機介入を必要とする関わりが多く、その時には的確な判断力が必要で、対象となる方にとって今のニーズは何か、最善のサービスは何なのかを考えてアプローチをする事が求められます。

一 中野さんから後輩思いで人をにこやかにする天賦の才を持っていると紹介がありました。和歌山市は若い相談員が多いですが後輩指導の秘訣は何ですか？また幼少の頃はどんなお子様だったのでしょうか？  
どえらい紹介の仕方で戸惑いますね(笑)。後輩指導の秘訣ですか？後輩を指導しているという思いはないのですが、

私達の仕事はチームアプローチが出来てなんぼ、という考えを持っています。だから相談員は仲間であり、お互いに批判しあいながら成長できたかなと思っています。後輩思いかどうかは一度そっと内緒で聞いてほしいな。

幼少の頃はあまり人と積極的に話すタイプではなかったように思います。高校時代に吹奏楽部に入り、私の人生は大きく変わったのでした。それは・・・ってまた次の機会にしましょうか。

一 休日はどのようにして過ごされていますか？  
休日はパーティーに明け暮れるわけもなく、最近はおもうすぐ2歳半になる子どもとのんびりじゃれあう日々を過ごしています。そして庭の草引きをしたり、花壇をいじったりする時間がちょっと幸せです。休日夜間の待機もあるので、その業務とプライベートの時間をきっちりと頭の中で割り切って休むように心がけています。とても大切で大変なことなんですけれど、あまり出来てないかな？

一 今後の抱負を教えてください。  
科学的根拠に裏付けされた実践を目指したいと思います。それから、相談者のニーズに沿った支援、バランスの取れた判断がどんな時でも出来るように心がけたいですね。そのためには自分自身がストレスをためないことが必要でしょう。

一 松岡さんから、次の方のご紹介をお願いします。  
はい。次は私の席の横にいやいや座ってくれているチームメイトであるパートナーを紹介したいと思います。いつも私の心を穏やかにさせてくれる保健師の谷井朋子さん、よろしくをお願いします。

## ◆ 研修会のお知らせ ◆

精神障害者ケアマネジメント研修	H16年 1月～3月の間	詳細は1月号にて掲載予定
第51回精神保健福祉全国大会 「ひろげよう こころの健康づくり」	10/31(金)	神戸ポートピアホテル
第14回日本嗜癪行動学会「地域社会と家族病理」	10/31(金)～11/2(日)	新潟県長岡リリックホール
ケアする人を支えるシステムと芸術・文化の役割	11/11(火)	大阪国際交流センター 主催/財団法人たんぼの家
精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 千葉 「あたりまえの風を起こそうよ」	11/11(火)～11/12(水)	千葉県安浦市文化会館
障害がある人びとの地域生活支援のための国際フォーラムシリーズ2003	11/19(水) 神戸 11/21(金) 東京	兵庫県民会館 センチュリーホール
SST普及協会第8回学術集会 in 幕張	12/5(金)～11/6(土)	千葉県幕張(財)海外職業訓練協会OVTA

## ◆ 朝井所長のひとりごと ◆

「あのビールをどうしよう?」と悩んでいます。18年前に阪神タイガースがセントラルリーグ優勝、そしてあの強かった西武ライオンズに4勝2敗で勝ち、日本一となった時に作られた記念ビール(350cc)2缶と、10年前の「優勝悲願ビール」2缶が、私のコレクションにあります。その時は、次にセントラルリーグで優勝したらそれを祝して飲もうと思っていましたが、10年経っても最下位の状態で死ぬまでビールは飲めないのではとあきらめかけていました。しかし夢にも思わなかった18年目に、監督就任2年目の星野監督が我が阪神タイガースを優勝させてくれました。

さてさてあのビールはどんな味がするの?それは苦いか?甘い?それともビール本来の味はするのだろうか?おそらく泡も出ないであろうビールのことを色々想像しながら、今年の記念グッズを買いそろえています。そしてどうせ同じならもう一度、阪神が優勝するまで、あのビールは開けずに置いておこう、と考えが変わってきています。

とにかく今は、阪神タイガースとタイエーホークスとのあれこれ思い出しながら、独りでビールを飲んでいます。阪神は過去、スタンガン投手を擁した野村監督の南海ホークスに3勝4敗で負けています。王監督と星野監督との因縁もあるし、リーグ優勝するとこんな楽しい日々になるのか・・・と感服しております。



## ◎ 編集後記

秋は行事が多くて忙しいですが、楽しめることも多い季節です。この前秋の夜長にDVDで「ベイ・フォワード」を観て久々感動しました。ACの子供が主人公で虐待やDV、アルコール依存症や麻薬中毒、いじめ等こんなに盛り沢山でなくても思うくらいで、そんな内容だったので家でくつろぐはずがやっぱり仕事人の目で観てしまいました。